



ロータリー：
変化をもたらし

Rotary



CHINO



ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

2017~2018年度国際ロータリーテーマ

茅野ロータリークラブ

茅野ロータリークラブ活動指針

「ロータリーの奉仕の進化と深化を楽しもう」

創立1981. 1. 26

2017 - 2018 会長 高見 恭司 幹事 勅使川原 一幸

Vol.16 1722 2017.11.15

高見会長挨拶

皆さんこんにちは

今日は、前々回の例会から始まりました「会員卓話」についてお話ししたいと思います。本日の卓話は、茅野ロータリークラブ在籍期間の長い会員からお願いしております。

卓話という言葉は、昔の国語辞典にも、漢和辞典にものっていません。当時は、して探せば、テーブルトークとあり、これは、食卓での談話も雑談の意味であります。また、一節によれば、卓話は明治の初めに福澤諭吉先生の造った言葉と言われています。

また、インターネットのウィキペディアを検索すると、卓話の意味は、「自身の世界に対する視野が広がり、人生において大きな力づくになることが期待でき」と解説し、備考欄には「主にロータリークラブで用いられている言葉」とであると検索されました。

卓話をする会員は準備のため大変ですが、会員は、例会での楽しみのひとつでもあります。限られた時間の中で、それとなく教えて頂く話、全く未知だった分野など豊かな時間を頂くことができます。

「集まって、人に学ぶ」はロータリーの伝統であり、その重要度は益々大きくなり、専門分野に限ることなく、人生感、経験談、趣味の世界、社会活動など、会員の引き出しの中から、取り出し、貴重なお話し頂くこととなります。

最後になりますが、卓話を通して、会員同士のさらなる交流の輪が広がることを期待して、会長挨拶と致します。ご清聴ありがとうございます。



日本人は自分だけなので気後れしたが出席。会話はできないがなんとなく気が伝わり楽しい経験だった。機会があったらメイキャップしてそのクラブの中へ飛び込んでいくのはとても大事なことだと思う。」

最後にゴルフを通してのロータリークラブの楽しさについてお話をされました。

卓話

「東日本大震災被災地を訪れて」

真道弘雄会員



「平岡先生との思い出は、先生はカラオケが大好きでビールを飲みながら歌いまくってました。私はロータリークラブ30年になります。最近では言葉遊びをしている。おめえ様何歳になりましたか？俺は当年とって65才です。私は当年とって言うことはわからなかった。(当年とは実際の年寄り10才引いたもの)」次に東日本大震災についてお話しされました。「原村でリフレッシュ事業というものがあり在宅医療をしている清水先生がきっかけで行われた。2011年から事業を始めた。宮城県三陸町に行きその被災者を原村に4泊5日でお迎えした。2015年には区切りをつけ取りやめになった。このたび9月20日南三陸町を前村長の清水さんら私を含め4名で再び訪れた。新庁舎の役場、総工費約56億円で台湾からの支援が約22億という南三陸病院、ケアセンター等を見学した。この夜、2013年リフレッシュ事業で原村に来た、宮大工の菅原さんという方に会いました。この方は仕事の道具等すべてを流されてしまったという事で、当時私の父親が作ったのこぎりを差し上げた。菅原さんはお元気で父の作ったのこぎりを使い母屋造りの立派な建物を建てたと言うことでお互いに喜んだ。2日目は原村に来た被災者の元を訪ね歩いた。報道では防災センターで最後まで避難するよう放送したのは女性の職員とのことでしたが、実際は男性の課長さんのことで、そのご両親にも会い写真を見せてもらい胸が詰まる思いであった。災害の恐ろしさを胸に刻んで帰ってきました。当年とって65才の話でした。」

※別紙幹事報告書

卓話

「茅野ロータリークラブ
における自身の役割」

牛山武明会員



茅野ロータリークラブにおけるご自身の役割についてお話しされました。「創立は昭和56年創立、当時41才、会員数24名、例会場は横内のことぶき会館(今はありません)。入会のきっかけは、会員が不足しているから誘われた。初代会長は矢嶋淳先生で会計を担当。4代目の堀秀文会長の時幹事を任せ、このときの例会場はホテルの、事務局は私のところ。平成3年、11代会長が私で、例会場はこのローヤル会館、会員数56名。平成13年、21代目五味光亮さんの時幹事地区のガバナ補佐となり、幹事が北原重信さんと、金田照俊さん、この時の会員数63名でした。」

次にメイキャップについてお話をされました。「以前勤めていたのが松本に本店のある上野会計事務所、その諏訪の事務所に就職、このとき所長が諏訪に時々来てぬのはんで送ってくれるよう頼まれた。あるとき会場まで迎えに行ったら会場はざわざわしており、暮を打っている人、雑談をしている人等で驚いた。これは一体どういうことか聞いたら例会が終わった後一番楽しい時間ですと言うことだった。皆さん立派な人ばかりで、こういう立場の人も息抜き時間がほしいのだと思った。所長に聞いたら松本のクラブに在籍しているがここでメイキャップをしたと言うことだった。」更にメイキャップのことで楽しいエピソードをお話しされました。「たまたま中京大学の学長さんとゴルフをご一緒して知り合いになった。その後その学長から名古屋のロータリークラブにはなかなか出席できないからメイキャップの手配を頼まれた。メイキャップしないのに証明だけくれ、しかも3枚もくれというのはどうなのかと思っただけでゴルフをご一緒した手前事務局にお願いして差し上げた。その後ゴルフの会があり名古屋での開催を計画、このとき中京大学の学長さんのことを思い出し、連絡してコースをとっていただいた。ゴルフが終わり料金を支払おうとしたら、その学長はこのゴルフ場のメンバーで、ここではメンバーがピジターの料金も肩代わりするという事で料金を払う必要はないとのことだった。メイキャップ3枚の効果はこんなにもすごいことだったと驚いた。また海外で地中海クルーズに参加中、船内放送でロータリークラブの例会をするから会員の方は参加するよう依頼があった。」

卓話

「親孝行について」

浜整之介会員



「6年前東電の原発が爆発し女房の実家が原発から30キロ以内と言うことで避難を余儀なくされ、女房の両親を引き取りました。その父は3年前虹の森で亡くなった。池田先生には大変お世話になりました。母はこの前のロータリーの例会には元気で出て来たんですが、その後外出したら具合が悪くなり今諏訪中央病院に入院中です。98才なのでもうだめかなと思っていたが、元気になりリハビリ中とのこと。気力とはすごいものだと思う。もともと自分でトイレにも行ける本も読む、短歌も読む、座らせればずっと足を崩さない。すごい人だなと思っていた。もうロータリーに出ることはできないと思う方がいい思い出になったかなと思う。私の実母は1957年に亡くなりかぞえると45年経つ。両親が生きている人もいると思うがとてもうらやましく思っていた。実父も平成4年に亡くなっている。22年経っている。親孝行できなくて親を送っているから女房の両親がきた時親孝行してあげたいと思った。親を大事にしろうという会に入っていて、親はただ一人の親であると言うことを勉強させていただいてそういう気持ちに自然になっていた。違和感なく女房の両親をむかえられたと思う。これが一番変わってくれたのは自分の女房が優しくなりました。平成8年、リーマンショックで我が社が存続の危機にさらされ、そのとき女房の母がわずかだけど足ししてくれと言われ、それが本当にすごく助かった。福の神がきてくれたと思った。銀行にすべて押さえられて動けなくなると人間本当に浅ましくなる。そんなときはわずかなお金でもありがたい。それだけでも恩返ししていかなければならないと思っている。まだ母もリハビリに励んで元気であるので引き続き親孝行していきたい。」

皆さんよいお話をありがとうございました。

ニコニコBOX

人数
25人
金額
49,000円

- ◎高見恭司会長 会員卓話の皆さん宜しくお願いします。
- ◎真道弘雄会員 結婚記念日のお花ありがとうございました。
- ◎田中淳喜会員 結婚記念日29回目。ラブラブです。
- ◎杉本浩美会員 結婚記念日に素敵なお花をいただきました。ありがとうございました。
- ◎面高信平会員 11月12日(いいひふの日)の講演会を伊那で行い40人の参加がありました。

出席報告

会員数 56名
出席 40名
出席率 71%